

SONY®

サウンドバー

取扱説明書

テレビとつなぐ

音声を聞く

サウンド効果を選ぶ

BLUETOOTH®機能で音楽/
音声を聞く

さまざまな機能を使う

困ったときは

その他



HT-S200F



安全のために

(→ 46 ページ～51 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

46～51 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。52 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

この取扱説明書の見かた	4
箱の中身を確かめる	5
本機でできること	6
各部の名称とはたらき	7

テレビとつなぐ

テレビと
HDMIケーブル ➡ スタートガイド（別紙）
をご覧ください。
ルでつなぐ

ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビとワイヤレスでつなぐ	14
壁に取り付ける	17
テレビのリモコンが効かないときは	19

音声を聞く

テレビや他機器の音声を聞く	20
USB機器の音楽を聞く	21

サウンド効果を選ぶ

音声を調節する	24
---------------	----

BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く

モバイル機器の音楽を聞く	27
--------------------	----

BLUETOOTH機器を操作して本機の電源を入れる	29
BLUETOOTH機能をオフにする	30

さまざまな機能を使う

HDMI機器制御機能を使う	31
"ラビアリング"を使う	33
HDMI機器の接続について	34
消費電力を抑える	34

困ったときは

困ったときは	35
初期化する	40

その他

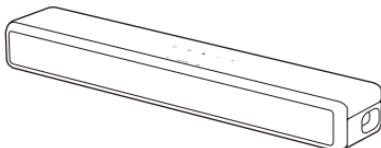
主な仕様	41
再生できる音声ファイルの種類（USB入力）	43
入力できる音声フォーマット（TV入力）	43
BLUETOOTH無線技術について	44
安全のために	46
使用上のご注意	52
保証書とアフターサービス	55

この取扱説明書の見かた

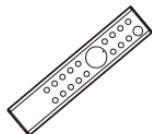
- ・本書では操作の説明はリモコンを使っています。
- ・イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- ・各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線が付けてあります。

箱の中身を確かめる

- バースピーカー (1)



- リモコン (1)



- 単4形マンガン乾電池 (2)



- 光デジタル音声ケーブル (1)



- ACアダプター (1)



- 電源コード (1)



- 壁掛け用クッション (2)



- 壁掛けテンプレート (1)



- スタートガイド



- 取扱説明書

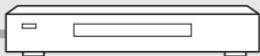


本機でできること

「テレビや他機器の音声を聞く」
(20 ページ)

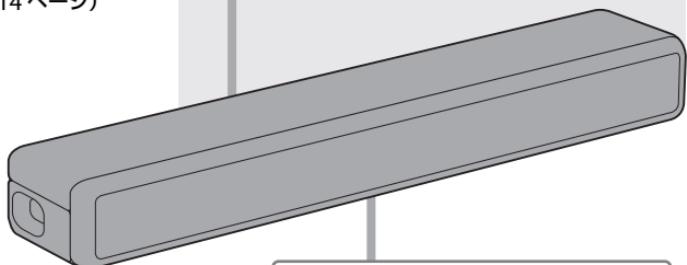


ブルーレイディスク™レコーダー、
ケーブルテレビ (CATV) ボックス
または衛星放送チューナーなど



テレビをつなぐ
(スタートガイド (別紙) をご覧ください。)

「ソニー製の
BLUETOOTH 機能搭載
テレビとワイヤレスでつ
なぐ」 (14 ページ)



「HDMI 機器制御機能を使う」 (31 ページ)
「“ ブラビアリンク ” を使う」 (33 ページ)



「USB 機器の音楽を聞く」
(21 ページ)

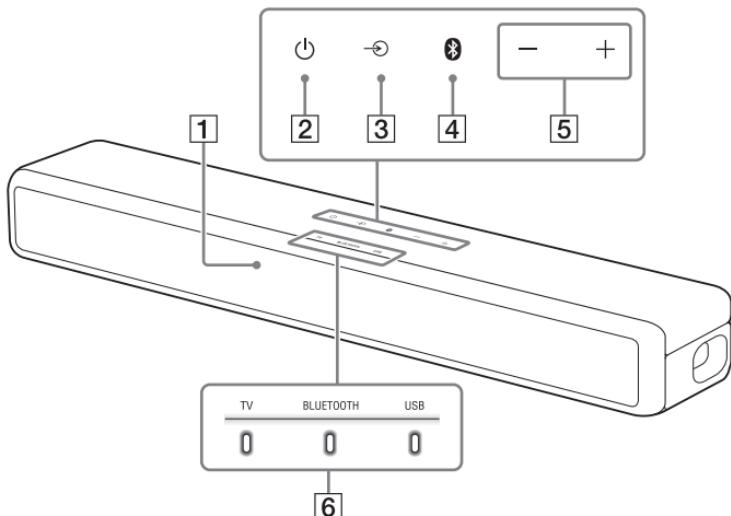
「モバイル機器の音楽を聞く」 (27 ページ)

各部の名称とはたらき

本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

バースピーカー

正面



① リモコン受光部

リモコンをバースピーカーの受光部に向けて操作してください。

② Ⓛ(電源) ボタン

本機の電源を入れます。
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。

③ Ⓜ(入力切換) ボタン (20ページ)

④ BLUETOOTHボタン (27ページ)

⑤ +／- (音量) ボタン

⑥ ランプ

ランプについて詳しくは「バースピーカーのランプについて」(8ページ)をご覧ください。

バースピーカーのランプについて

バースピーカーのランプの点灯や点滅は、本機の入力や入力機器の状態を表します。

ランプ	状態
TV	<ul style="list-style-type: none">点灯：テレビ入力選択中
BLUETOOTH	<ul style="list-style-type: none">点灯（青色）：BLUETOOTH接続完了（BLUETOOTH入力選択中）速く点滅（青色）（1秒間に約2回点滅）：ペアリング待ち受け中ゆっくり点滅（青色）（1秒間に約1回点滅）：BLUETOOTH接続待機中
USB	<ul style="list-style-type: none">点灯：USB入力選択中2回点滅：プレイモードが変更されたとき3回点滅した後ゆっくり点滅：サポートしていない機器がつながっているとき速く点滅：つないだUSB機器からデータ読み込み中
TV	<ul style="list-style-type: none">点灯：BLUETOOTH機能でテレビと接続中（TV入力選択中）
BLUETOOTH	
USB	

機能設定のオン／オフ切り換え時やリモコンの操作時は以下のランプが点滅します。

ランプ	状態
TV	<ul style="list-style-type: none">2回点滅：以下の機能をオンに設定したとき<ul style="list-style-type: none">ナイトモード（24ページ）ボイスモード（25ページ）
BLUETOOTH	<ul style="list-style-type: none">1回点滅：音声切換を主音声に設定（25ページ）、サウンドモードを選択（24ページ）、または以下の機能をオフに設定したとき<ul style="list-style-type: none">ナイトモード（24ページ）ボイスモード（25ページ）

ランプ	状態
USB 0	<ul style="list-style-type: none"> • 2回点滅：以下の機能をオンに設定したとき <ul style="list-style-type: none"> – ドルビー DRC (25ページ) – HDMI機器制御機能 (31ページ) – BLUETOOTHスタンバイ (29ページ) – BLUETOOTH機能 (29ページ) – 自動電源オフ (34ページ) – IRリピーター機能 (19ページ) – 音量自動調節機能 (26ページ) – 壁掛けモード (17ページ) • 1回点滅：音声切換を副音声に設定 (25ページ)、または以下の機能をオフに設定したとき <ul style="list-style-type: none"> – ドルビー DRC (25ページ) – HDMI機器制御機能 (31ページ) – BLUETOOTHスタンバイ (29ページ) – BLUETOOTH機能 (29ページ) – 自動電源オフ (34ページ) – IRリピーター機能 (19ページ) – 音量自動調節機能 (26ページ) – 壁掛けモード (17ページ)
TV BLUETOOTH USB 0 0 0	<ul style="list-style-type: none"> • 2回点滅：テレビとBLUETOOTH接続する機能をオンに設定したとき (14ページ) • 1回点滅：テレビとBLUETOOTH接続する機能をオフに設定したとき (14ページ)
TV BLUETOOTH USB 0 0 0	<ul style="list-style-type: none"> • 1回点滅：音声切換を主音声+副音声に設定したとき (25ページ)
TV BLUETOOTH USB 0 0 0	<ul style="list-style-type: none"> • 速く点滅（1秒間に約2回点滅）：プロテクト機能作動中 (39ページ) • ゆっくり点滅（1秒間に約1回点滅）：自動電源オフ機能によって本機がスタンバイモードになっているとき (34ページ)

音量調節時は以下のランプが点滅します。

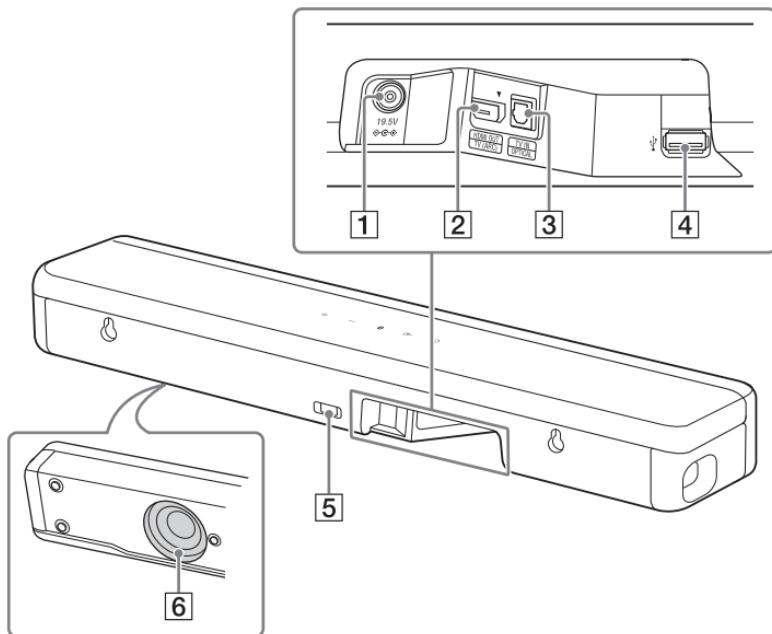
ランプ	状態
TV BLUETOOTH USB   	<ul style="list-style-type: none">1回点滅：音量が小さく設定（1～20）されているとき／低音レベルを-1（弱）に設定したとき（26ページ）
TV BLUETOOTH USB   	<ul style="list-style-type: none">1回点滅：音量が中程度に設定（21～40）されているとき／低音レベルを0（標準）に設定したとき（26ページ）
TV BLUETOOTH USB   	<ul style="list-style-type: none">1回点滅：音量が大きく設定（41～49）されているとき／低音レベルを+1（強）に設定したとき（26ページ）
TV BLUETOOTH USB   	<ul style="list-style-type: none">繰り返し点滅：消音されているとき2回点滅：音量が最大または最小になったとき

ちょっと一言

オートサウンドボタンを5秒間長押しするとランプが消灯します。

オートサウンドボタンを使ってランプを消灯しても、本機を操作すると、本機の操作に関連するランプが点灯／点滅します。

背面



① DC入力端子

**② HDMI OUT (TV (ARC))
(HDMI出力) 端子**

HDMI入力端子のあるテレビを
HDMIケーブルでつなぎます。本
機はARC（オーディオリターン
チャンネル）に対応しています。
ARCとはHDMIケーブルを通して、
テレビの音声をテレビのHDMI端
子から本機などのAV機器に送る機
能です。

**③ TV IN (OPTICAL) (テレビ入力
(光デジタル)) 端子**

④ ↳(USB) 端子 (21ページ)

⑤ IRリピーター (19ページ)

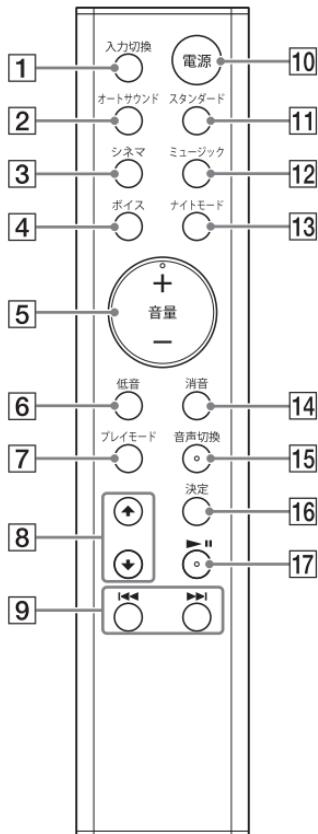
バースピーカーが受けたテレビの
リモコン信号をテレビに転送しま
す。

⑥ サブウーファー

リモコン

ボタンを押す長さで働きが異なるボタンがあります。下記のマークはボタンを押す長さを表します。

- ：短く押します。
- ：5秒間押したままにします。



① 入力切換ボタン（20ページ）

本機で再生する入力を選びます。ボタンを押すと、現在選ばれている入力のランプが点滅します。もう一度ボタンを押して、入力を選びます。

押すたびに入力は以下のように切り換わります。
TV入力→BLUETOOTH入力→USB入力

② オートサウンドボタン

- ：サウンドモードのオートサウンドを選びます。（24ページ）
- ：バースピーカーのランプを点灯／消灯します。（8ページ）

③ シネマボタン

- ：サウンドモードのシネマを選びます。（24ページ）
- ：自動電源オフ機能のオン／オフを設定します。（34ページ）

④ ボイスボタン

- ：ボイスモードのオン／オフを設定します。（25ページ）
- ：HDMI機器制御機能のオン／オフを設定します。（31ページ）

⑤ 音量+*/-ボタン

音量を調節します。

⑥ 低音ボタン

- ：低音のレベルを調節します。（26ページ）
- ：壁掛けモードのオン／オフを設定します。（17ページ）

[7] プレイモードボタン (21ページ)
USB再生時にプレイモードを選びます。

[8] ↑/↓ボタン (21ページ)
USB再生時にテレビ画面で再生する音楽ファイルを選びます。
[9] ▶◀/▶▶ (前へ/次へ) ボタン (21、27ページ)
短く押すと前または次のファイルの先頭に進みます。
押したままにすると早戻し／早送りできます。

[10] 電源ボタン
本機の電源を入れます。
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態になります。

[11] スタンダードボタン
●: サウンドモードのスタンダードを選びます。(24ページ)
■: IRリピーター機能のオン／オフを設定します。(19ページ)

[12] ミュージックボタン
●: サウンドモードのミュージックを選びます。(24ページ)
■: 自動音量調整機能のオン／オフを設定します。(26ページ)

[13] ナイトモードボタン
●: ナイトモードのオン／オフを設定します。(24ページ)
■: BLUETOOTHスタンバイモードのオン／オフを設定します。(29ページ)

[14] 消音ボタン
音を一時的に消します。
消音状態のときに押すと消音を解除します。

[15] 音声切換ボタン*
●: 2か国語放送の音声を切り替えます。(25ページ)
■: ドルビー DRC機能のオン／オフを設定します。(25ページ)

[16] 決定ボタン (21ページ)
USB再生時に↑/↓ボタンで選んだ音楽ファイルを再生します。

[17] ▶▷ (再生／一時停止) ボタン* (21、27ページ)
一時停止または再生を再開します。

* 音声切換ボタン、音量+ボタン、▶▷ (再生／一時停止) ボタンには、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

電池交換について
リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り換えてください。
電池は単4形マンガン乾電池をお使いください。

テレビとつなぐ

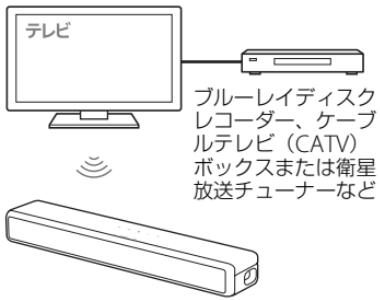
テレビとHDMI ケーブルでつなぐ

スタートガイド（別紙）をご覧ください。

ソニー製の BLUETOOTH機能搭載テレビとワイヤレスでつなぐ

ソニー製のBULETOOTH機能搭載テレビ*をお使いの場合、テレビと本機をBLUETOOTH機能でつないで、テレビやテレビにつないだ機器の音声をワイヤレスで聞くことができます。

* A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。



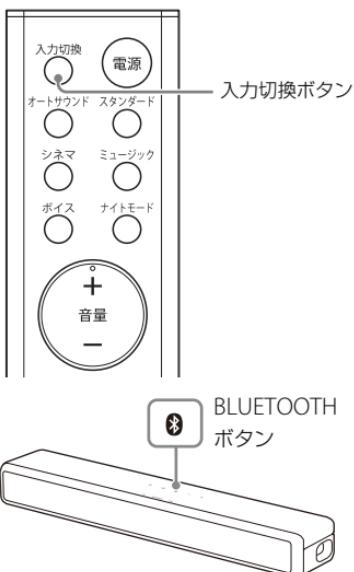
ご注意

テレビと本機をBLUETOOTH機能でつなぐと、USB機器再生画面などの操作画面をテレビ画面に表示することができないため、テレビやテレビにつないだ機器の音声を聞く以外の機能はお使いになれません。

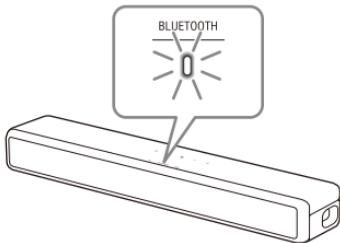
本機のすべての機能をお使いになりたい場合は、本機とテレビをHDMIケーブル（別売）でつないでください。テレビとHDMIケーブルでつないで、テレビの音声を聞くための接続と操作については、スタートガイド（別紙）をご覧ください。

テレビとワイヤレスでつなぐ

本機とテレビをワイヤレスでつなぐには、BLUETOOTH機能を使ってテレビと本機を機器登録（ペアリング）する必要があります。ペアリングとは、BLUETOOTH機器同士を互いにあらかじめ登録することです。



1 バースピーカーのBLUETOOTHボタンとリモコンの入力切換ボタンを同時に5秒間長押しする。
TVランプとBLUETOOTHランプが2回点滅し、本機がペアリングモードになり、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



2 テレビで機器登録（ペアリング）操作をして、本機を検索する。

テレビの画面に検出したBLUETOOTH機器の一覧が表示されます。

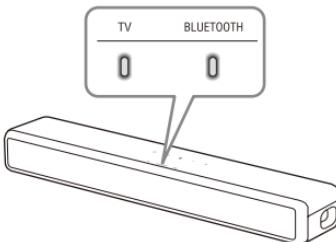
テレビにBLUETOOTH機器を機器登録（ペアリング）する操作方法は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 テレビの画面に表示された機器の一覧から「HT-S200F」を選び、互いの機器を登録する。

4 バースピーカーのBLUETOOTHランプとTVランプが点灯していることを確認する。

本機とテレビとの接続が完了し、本機からテレビの音声が出力されます。

ペアリング完了後は、本機の電源を入れると自動的に本機からテレビの音声が出力されます。



ご注意

- 本機からテレビの音声が出ないときは、リモコンの入力切換ボタンを繰り返し押してTV入力を選び、バースピーカーのランプの状態を確認してください。
 - TVランプとBLUETOOTHランプが点灯しているとき：本機とテレビの接続が完了しテレビの音声が本機から出力されます。
 - BLUETOOTHランプが速く点滅しているとき：テレビ側でペアリングを行ってください。
 - TVランプが点灯しているとき：ペアリングの手順を最初からやり直してください。
- 本機とテレビをHDMIケーブル（別売）でつなぐと、BLUETOOTH接続が解除されます。本機とテレビをBLUETOOTH機能でつなぎなおすには、HDMIケーブルを抜

いてからペアリングの手順を最初からやり直してください。

- 1台のテレビとペアリングした後、別のテレビをペアリングする場合は、ペアリング済みのテレビの電源を切り、モバイル機器と同様の手順で別のテレビをペアリングしてください（27ページ）。

テレビやテレビにつないだ機器の音声を聞く

テレビとワイヤレスでつなぐと、テレビのリモコン操作でも本機の電源入／切、音量調節、消音の操作ができます。

1 テレビのリモコンでテレビの電源を入れる。

テレビの電源に連動して本機の電源が入り、本機からテレビの音声が出力されます。

2 テレビのリモコンでお好みの番組、またはテレビにつないだ機器の入力を選ぶ。

本機からテレビに表示している画面の音声が出力されます。

3 テレビのリモコンで音量を調節する。

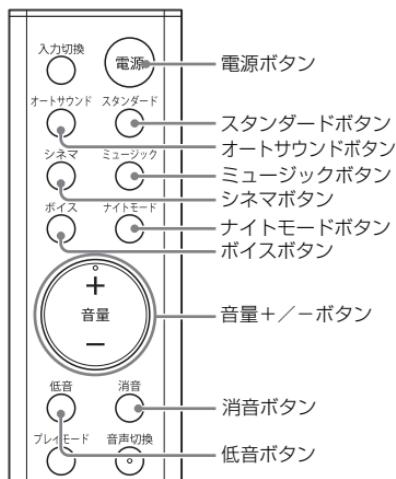
テレビのリモコンの消音ボタンを押すと、本機の音を一時的に消すことができます。

ちょっと一言

テレビの電源を切ると、テレビの電源に連動して本機の電源も切れます。

本機のリモコンで操作できること

以下のボタンを使うことができます。テレビのリモコンで操作できる電源入／切や音量調節以外に、低音のレベル調節や本機の音質調整をすることができます。

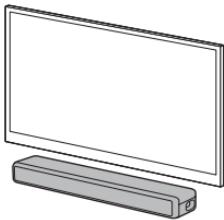


ご注意

本機のリモコンでUSB入力を選ぶと、テレビの音声が本機から出なくなります。テレビの音声を本機で聞くには、リモコンの入力切換ボタンを押してTV入力を選んでください。

壁に取り付ける

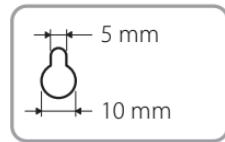
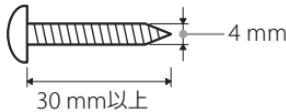
次の手順でバースピーカーを取り付けることができます。



ご注意

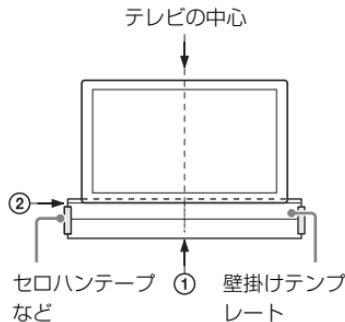
- ・壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。バースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- ・販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- ・取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、ソニーは一切責任を負いません。

- 1** バースピーカー背面の穴に合う市販のネジを2本用意する。



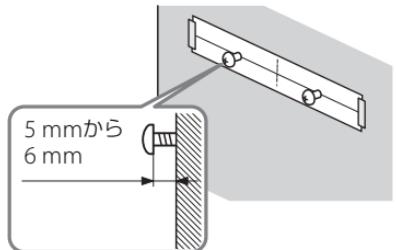
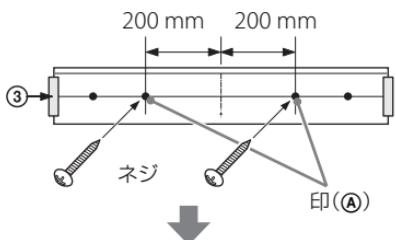
バースピーカー背面の穴

- 2** 壁掛けテンプレート（付属）を壁に貼る。



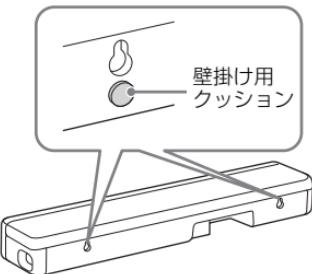
- 1 壁掛けしたテレビの中心に壁掛けテンプレートのTVセンター線（①）を合わせる。
- 2 壁掛けテンプレートのTV下端ライン（②）をテレビの下端に合わせ、壁掛けテンプレートを市販のセロハンテープなどで貼る。

3 下図のように壁掛けテンプレートのネジ取付ライン(③)上の印(A)にネジをとめる。



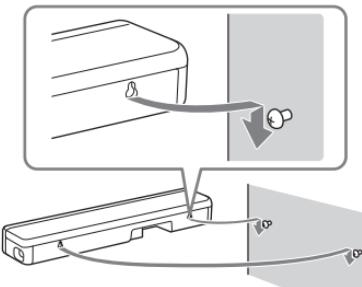
4 壁掛けテンプレートを取りはずす。

5 壁掛け用クッション(付属)をバースピーカー背面の穴の下に貼り付ける。



6 バースピーカー背面の穴をネジにかける。

バースピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2か所同時に取り付けてください。



7 低音ボタンを5秒間長押しして壁掛けモードをオンに設定する。

USBランプが2回点滅します。
本機を壁に取り付けたときに適した音質に設定します。

ご注意

- ・壁掛けテンプレートはしっかり伸ばして貼ってください。
- ・壁掛けモードをオフにするには、低音ボタンを5秒間長押しします。USBランプが1回点滅します。

テレビのリモコン が効かないときは

バースピーカーがテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなる場合があります。このようなときは本機のIRリピーター機能を有効にしてください。バースピーカーが受けたテレビのリモコン信号がテレビに転送され、リモコン操作が可能になります。

スタンダードボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

IRリピーター機能：オン

USBランプが2回点滅します。

IRリピーター機能：オフ

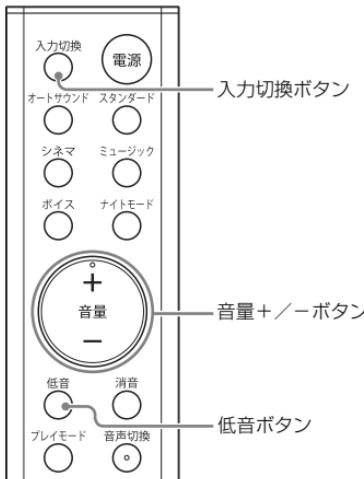
USBランプが1回点滅します。

ご注意

- ・テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから、IRリピーター機能を有効にしてください。操作できるときにIRリピーター機能を有効にすると、テレビのリモコンからの直接の信号とバースピーカーで中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。
- ・お使いのテレビによってはIRリピーター機能が正しく働かない場合があります。その場合は、バースピーカーの位置をテレビから少し離してみてください。

音声を聞く

テレビや他機器の音声を聞く



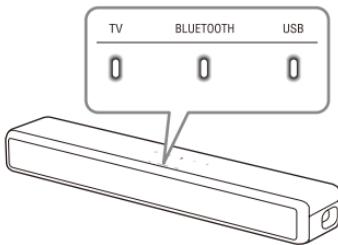
1 入力切換ボタンを繰り返し押す。

ボタンを押すと、現在選ばれている入力のランプが点滅します。

もう一度ボタンを押して、入力を選びます。

押すたびに入力は以下のように切り換わります。

TV入力→BLUETOOTH入力→USB入力



TV入力

- TV IN (OPTICAL)端子につないだテレビ
- HDMI OUT (TV (ARC))端子につないだオーディオリターンチャネル (ARC) 対応のテレビ
テレビをHDMI OUT (TV (ARC))端子とTV IN (OPTICAL)端子両方につないだ場合は、先に音声を入力した端子が優先されます。

BLUETOOTH入力

A2DPに対応しているBLUETOOTH機器

詳しくは「BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く」(27ページ)をご覧ください。

USB入力

↓(USB) 端子につないだUSB機器
詳しくは「USB機器の音楽を聞く」(21ページ)をご覧ください。

2 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンの低音ボタンで低音レベルを調節します (26ページ)。

ちょっと一言

バースピーカーのボタンを押して入力を選ぶこともできます。

USB機器の音楽 を聞く

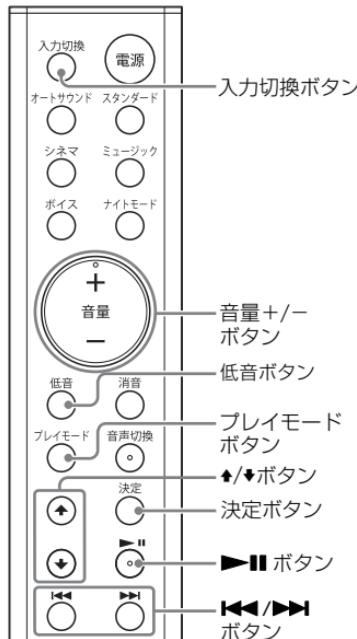
USB機器の音楽ファイルを再生できます。

再生可能なファイルについては「再生できる音声ファイルの種類（USB入力）」（43ページ）をご覧ください。

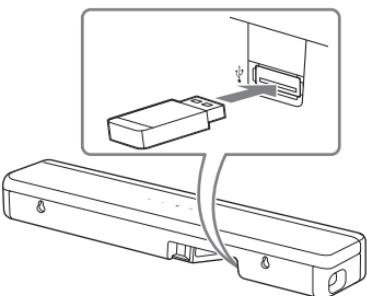
音声を聞く

ご注意

- USB音楽ファイルリストをテレビ画面に表示する場合は、本機とテレビをHDMIケーブルでつないでください。
- テレビ側で本機をつないでいる入力を選んでください。



1 (USB) 端子にUSB機器を差し込む。



2 入力切換ボタンを繰り返し押してUSB入力を選ぶ。

USBランプが点灯し、USB音楽ファイルリストがテレビ画面に表示されます。

3 ボタンを押して音楽ファイルを選び決定ボタンを押す。

選んだ音楽ファイルの再生を開始します。

4 プレイモードボタンを繰り返し押してプレイモードを選ぶ。

- 表示なし：全ての音楽ファイルを再生します。
- [/] (1曲リピート)：再生中の音楽ファイルを繰り返し再生します。
- [/] (フォルダーリピート)：フォルダー内の全ての音楽ファイルを繰り返し再生します。

- [] (シャッフル)：フォルダー内の全ての音楽ファイルをシャッフル再生します。
- [] (全曲リピート)：全ての音楽ファイルを繰り返し再生します。

プレイモードボタンを押すたびに、USBランプが2回点滅します。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンの低音ボタンで低音レベルを調節します（26ページ）。

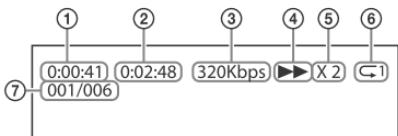
その他の操作

こんなときは	操作
途中で止める、つづきを再生する	 ボタンを押す。
前の音楽ファイルまたは次の音楽ファイルを選ぶ	 /  ボタンを押す。
早戻し／早送りする	 /  ボタンを押したままにする。

ご注意

- 操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。
- サポートしていない機器がつながっている場合は、USBランプが3回点滅した後ゆっくり点滅します。
- ファイルフォーマットによって早戻し／早送りが動作しないことがあります。

テレビ画面に表示される USB機器の情報について



- ① 再生時間
- ② 総再生時間
- ③ ビットレート
- ④ 再生状態
- ⑤ 早戻し／早送りの速度
- ⑥ プレイモード
- ⑦ 選んだ音楽ファイルのインデックス／フォルダー内の総ファイル数

USB機器の状態によってテレビ画面に以下 のメッセージが表示されます。

- [File unsupported]
サポートしていないファイルをスキップしたときに画面左下端に1秒間表示されます。
- [Device Not Supported]
－サポートしていないUSB機器です。
－USB機器以外または不良なUSB機器、ファイルが含まれていないUSB機器がつながっています。
- [No USB]
USB機器がつながれていません。
- [Waiting]：つないだUSB機器からデータ読み込み中です。
- [This device is empty]
USB機器に再生可能なファイルがありません。

ご注意

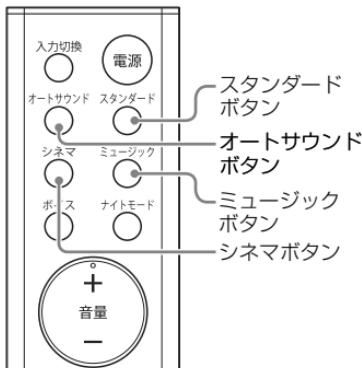
- 音楽ファイルによって表示されない情報もあります。
- プレイモードによって表示される情報は異なります。

サウンド効果を選ぶ

音声を調節する

音源に合わせたサウンド効果に設定する（サウンドモード）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選べます。



オートサウンドボタンまたはシネマボタン、ミュージックボタン、スタンダードボタンを押してサウンドモードを選ぶ。

サウンドモードを選ぶと、TVランプが1回点滅します。

オートサウンド

おすすめのサウンド効果です。再生するコンテンツに合った音設定に自動的に切り換わります。

シネマ

サラウンド効果をともない、音の密度、豊かな広がりを再現し、映画をみるときに最適です。

ミュージック

音楽を聞くときに最適です。

スタンダード

各音源に最適化されたサウンド効果です。

深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ（ナイトモード）

ナイトモードをオンにすると、音量の幅を圧縮して小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

ナイトモードボタンを押してオン／オフに設定する。

ナイトモード：オン

TVランプが2回点滅します。

ナイトモード：オフ

TVランプが1回点滅します。

ご注意

本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的にオフになります。

セリフを聞きやすくする（ボイス）

ボイスモードをオンにすると、セリフをクリアにして聞こえやすくなります。

ボイスボタンを押してオン／オフに設定する。

ボイスモード：オン

TVランプが2回点滅します。

ボイスモード：オフ

TVランプが1回点滅します。

音量の幅を小さくして小さい音を聞こえやすくする

この機能は、本機のTV IN (OPTICAL) 端子やHDMI OUT (TV (ARC))端子につないだ機器のドルビーデジタル信号を再生する場合のみ有効です。ドルビー DRC (Dynamic Range Control) をオンにすると、音声信号のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量の幅）を圧縮して、小さな音を聞きとりやすくします。

音声切換ボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

ドルビー DRC：オン

USBランプが2回点滅します。

ドルビー DRC：オフ

USBランプが1回点滅します。

2か国語放送の音声を切り換える（音声切換）

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているMPEG2-AAC音声方式で放送されています。

BSデジタル放送などのMPEG2-AAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（付属）でつなぎます。

お使いのテレビのHDMI端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能（31ページ）に対応している場合は、HDMIケーブル経由でMPEG2-AAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からMPEG2-AAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

音声切換ボタンを繰り返し押す。

音声が以下のように切り換わります。

主音声 → 副音声 → 主音声/副音声

主音声

主音声を再生します。

TVランプが1回点滅します。

副音声

副音声を再生します。
USBランプが1回点滅します。

主音声/副音声

主音声は左のスピーカーから、副音声
は右のスピーカーから再生されます。
TVランプとUSBランプが1回点滅しま
す。

+1 (強)

すべてのランプが1回点滅します。

-1 (弱)

TVランプが1回点滅します。

ご注意

テレビ放送などの低音の少ない入力では、
サブウーファーの低音が聞こえにくいこと
があります。

つないだ機器の音量を自動調 節する

自動音量調節機能をオンにすると、本
機につないだ機器の入力信号やコンテ
ンツに合わせて自動的に音量を調節す
ることができます。

**ミュージックボタンを5秒間長
押ししてオン／オフに設定す
る。**

音量自動調節：オン

USBランプが2回点滅します。

音量自動調節：オフ

USBランプが1回点滅します。

低音のレベルを調節する

低音ボタンを繰り返し押す。

低音レベルが以下のように変わりま
す。

0→+1→0→-1→0...

0 (標準)

TVランプとBLUETOOTHランプが1回
点滅します。

BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く

モバイル機器の音楽を聞く

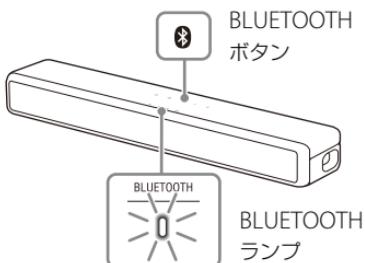
スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器とBLUETOOTH機能でつながり、モバイル機器に保存しているさまざまな音楽をワイヤレスで聞くことができます。

モバイル機器とBLUETOOTH機能でつながる場合は、テレビの電源を入れることなく、本機のリモコンだけでつなぐことができます。

モバイル機器を機器登録（ペアリング）して音楽を聞く

1 バースピーカーのBLUETOOTHボタンを5秒間長押しする。

本機がペアリングモードになり、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



本機がペアリングモードになってから5分間ペアリングが行われないと、ペアリングモードがキャンセルされます。その場合は最初からやりなおしてください。

2 モバイル機器で機器登録（ペアリング）操作をして、本機を検索する。

モバイル機器の画面に検出したBLUETOOTH機器の一覧が表示されます。

モバイル機器にBLUETOOTH機器を機器登録（ペアリング）する操作方法は、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

3 モバイル機器の画面に表示された機器の一覧から「HT-S200F」を選び、互いの機器を登録する。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

4 バースピーカーのBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

5 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

バースピーカーから音声が出力されます。

6 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンの低音ボタンで低音レベルを調節します（26ページ）。
- ▶▷ボタンや◀◀/▶▷ボタンを使って再生操作ができます。（早戻し／早送りも操作できます。）

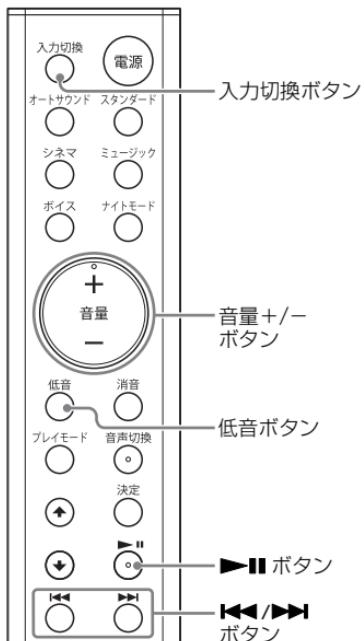
ご注意

- BLUETOOTH機器は10台までペアリングできます。10台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、10台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビと本機をペアリングした場合は、テレビもBLUETOOTH機器のひとつとして認識されます。
- 2台目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

ちょっと一言

- BLUETOOTH機器の接続状態は、バースピーカーのBLUETOOTHランプで確認できます（8ページ）。
- BLUETOOTH入力選択中は、バースピーカーのBLUETOOTHボタンを押すと、ペアリングモードになります。
- BLUETOOTH入力を選んでいないときは、バースピーカーのBLUETOOTHボタンを押すと、最後につないだBLUETOOTH機器と自動的につなぎます。

機器登録（ペアリング）済みのモバイル機器の音楽を聞く



1 モバイル機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

2 入力切換ボタンを繰り返し押してBLUETOOTH入力を選ぶ、またはバースピーカーのBLUETOOTHボタンを押す。

BLUETOOTHランプが点滅し最後につないだBLUETOOTH機器と自動的につなぎます。

3 BLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

バースピーカーから音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンの低音ボタンで低音レベルを調節します（26ページ）。
- ▶/IIボタンや◀/▶ボタンを使って再生操作ができます。（早戻し／早送りも操作できます。）

BLUETOOTH機器を操作して本機の電源を入れる

BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、本機がスタンバイ状態のときにペアリング済みのBLUETOOTH機器の操作により本機の電源を入れて音声を聞くことができます。

ナイトモードボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

BLUETOOTHスタンバイモード：オン
USBランプが2回点滅します。

BLUETOOTHスタンバイモード：オフ
USBランプが1回点滅します。

ご注意

BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、スタンバイ時の消費電力が大きくなります。

BLUETOOTH機能をオフにする

BLUETOOTH機能をオフにすることができます。

バースピーカーの△ボタン、
→ボタン、-ボタンを10秒間
長押ししてオン／オフに設定
する。

BLUETOOTH機能：オン

USBランプが2回点滅します。

BLUETOOTH機能：オフ

USBランプが1回点滅します。

ご注意

BLUETOOTH機能をオフにすると、入力切換ボタンを押して入力を選ぶときに
BLUETOOTH入力はスキップされます。

さまざまな機能を使う

HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能*対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作が簡単にできます。

HDMI機器制御機能では下記の機能が使えます。

- ・電源オフ連動
- ・システムオーディオコントロール
- ・オーディオリターンチャンネル(ARC)
- ・ワンタッチプレイ

ご注意

これらの機能は他社製の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

* HDMI機器制御は、CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

HDMI機器制御機能の準備をする

ボイスボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

HDMI機器制御機能：オン

USBランプが2回点滅します。

HDMI機器制御機能：オフ

USBランプが1回点滅します。

本機につないだテレビとテレビにつないだ機器のHDMI機器制御機能の設定を有効にしてください。

ちょっと一言

ソニー製のテレビをご使用の場合は、テレビのHDMI機器制御（“ブリビアリンク”）機能を有効にすると、本機のHDMI機器制御機能も自動的に有効になります。

電源オフ連動

テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。

テレビのメニューからも操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- ・テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。
- ・テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・テレビによっては、前回テレビを見たときに、音声がテレビのスピーカーから出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源は自動的に入りません。

は本機のスピーカーから出力されます。

ご注意

- ・前回テレビをみたときに、音声がテレビのスピーカーから出力されていた場合は、機器のコンテンツを再生しても本機の電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されることがあります。
- ・テレビによっては、再生中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。

オーディオリターンチャンネル (ARC)

テレビのオーディオリターンチャンネル (ARC) 対応HDMI入力端子に本機をつないだ場合は、光デジタル音声ケーブルをつながずにテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

ご注意

ARC非対応のテレビの場合は、光デジタル音声ケーブル（付属）の接続が必要です。（スタートガイド（別紙）参照）

ワンタッチプレイ

テレビにつないだ機器（ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4など）のコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、本機の入力はテレビに切り換わり、音声

“プラビアリンク” を使う

“プラビアリンク”対応の機器では、HDMI機器制御機能の他に下記の機能も使うことができます。

- ・オートジャンルセレクター
- ・シーンセレクト連動
- ・オーディオ機器コントロール

ご注意

これらの機能はソニー独自の機能です。他社製の機器では使えません。

オートジャンルセレクター

視聴している番組情報（EPG情報）を検出し、本機のサウンドモード（24ページ）をその番組のジャンルに合わせて自動的に切り換え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。

この機能はテレビがオートジャンルセレクターに対応している場合に使えます。詳しくはテレビや機器の取扱説明書をご覧ください。

サウンドモードをオートサウンドにしてください（24ページ）。

ご注意

番組情報（EPG情報）に応じてサウンドモードが切り換わるときに音が途切れることがあります。

シーンセレクト連動

テレビのシーンセレクトや音質モードの設定に応じて、本機のサウンドモードを自動的に切り換えます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

サウンドモードをオートサウンドにしてください（24ページ）。

オーディオ機器コントロール

オーディオ機器コントロール対応テレビをご使用の場合、テレビの入力を切り換えることなく、本機の設定、サウンドモードの設定、入力切り換えなどができます。

この機能はテレビがインターネットにつながれている場合に使えます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

さまざまな機能を使う

HDMI機器の接続について

- ・認証を受けたHDMIケーブルをおすすめします。
- ・ケーブルタイププロゴの明記されたソニー製のイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをおすすめします。
- ・HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- ・HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。

消費電力を抑える

消費電力を抑えて本機を使うには、下記の設定を変更します。

使用状況を検知して本機の電源を切る

自動電源オフ機能をオンにすると、入力がない状態で本機を何も操作しないまま約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

シネマボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

自動電源オフ機能：オン
USBランプが2回点滅します。

自動電源オフ機能：オフ
USBランプが1回点滅します。

スタンバイ時の消費電力を抑える

スタンバイ時の消費電力を抑えるには、BLUETOOTHスタンバイモード（29ページ）とHDMI機器制御機能（31ページ）をオフにしてください。お買い上げ時の設定はオンです。

困ったときは

困ったときは

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

- 電源コードやACアダプターがしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

本機の電源が勝手に切れてしまう

- 自動電源オフ機能が働いています。自動電源オフ機能をオフにしてください（34ページ）。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

- 本機のHDMI機器制御機能をオンに設定してください（31ページ）。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

→ テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が output されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

- 本機のHDMI機器制御機能の設定を確認してください（31ページ）。オンに設定している場合は、本機の入力がTV入力のときにテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

テレビの電源を切っても、本機の電源が切れない

- 本機のHDMI機器制御機能の設定を確認してください（31ページ）。本機の入力がTV入力とき、テレビの電源を切ったときに本機の電源も連動させたい場合は、オンに設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

映像

映像が出ない、正しく出力されない

- 適切な入力を選んでください（20ページ）。
- 本機の入力がTV入力のときにテレビの映像が出ない場合は、テレビのリモコンで見たいチャンネルを選んでください。
- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。

音声

本機からテレビの音声が出ない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブルまたは光デジタル音声ケーブルの種類や接続を確認してください（スタートガイド（別紙）を参照）。
- テレビと本機をつないでいるケーブル類を抜き、しっかり奥まで差し込みなおしてください。続けてテレビと本機の電源コードを抜き、差し込みなおしてください。
- テレビと本機をHDMIケーブルのみでつないでいる場合は、以下を確認してください。

一本機がテレビのARC対応HDMI入力端子につながれている。

－テレビのHDMI機器制御機能が有効になっている。

－本機のHDMI機器制御機能がオンになっている（31ページ）。

- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、光デジタル音声ケーブル（付属）をつないでください（スタートガイド（別紙）を参照）。テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子につないでもテレビの音声は本機から出力されません。
- 入力切換ボタンを繰り返し押して、TV入力を選んでください（20ページ）。
- テレビの音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビと本機をつなぐ順番によっては、本機が消音状態になる場合があり

ます。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。

- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビから出力されている音声を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機はドルビーデジタル、PCM音声、MPEG2-AACフォーマットに対応しています（43ページ）。対応していないフォーマットの音声を再生する場合は、テレビ（ブラビア）のデジタル音声出力を「PCM」に設定してください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機とテレビの両方から音声が出る

- 本機またはテレビを消音してください。

本機につないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください（12ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください（12ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。リモコンの入力切換ボタンを押して入力を選んでください（20ページ）。
- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認してください。

- アップサンプリング機能に対応している機器をつないだ場合は、アップサンプリング機能をオフにしてください。

サラウンド効果が得られない

- サウンド効果の設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

サブウーファー

サブウーファーから音声が出ない、または音が小さい

- 低音ボタンを繰り返し押して、低音のレベルを調節してください（26ページ）。
- 低音の少ない入力（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。内蔵のデモ音楽を再生してサブウーファーから音声が出来ることを確認してください。
① パースピーカーの一 \odot ボタンを5秒間長押しする。
内蔵のデモ音楽が再生されます。
② もう一度一 \odot ボタンを押す。
内蔵のデモ音楽の再生が終了し、元の状態に戻ります。
- ナイトモードをオフにしてください。
詳しくは「深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ（ナイトモード）」（24ページ）をご覧ください。

- 本機の底面にあるサブウーファーを傷つけないように設置してください。

USB機器の接続

USB機器が認識されない

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器が \downarrow （USB）端子にしっかりとつながれているか確認してください（21ページ）。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているか確認してください。
- USB機器がハブを経由して本機とつながれている場合は、USB機器をハブからはずして、本機に直接つないでください。

モバイル機器の接続

BLUETOOTH接続ができない

- バースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください（7ページ）。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- BLUETOOTH機器を本機にできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。

- BLUETOOTH機能をオフに設定している場合は、オンに設定してください（30ページ）。

ペアリングできない

- BLUETOOTH機器を本機にできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器、電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 他のBLUETOOTH機器が近くにあるときはペアリングできない場合があります。その場合は、そのBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

つないだBLUETOOTH機器の音声が本機から出ない

- バースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください（7ページ）。
- BLUETOOTH機器を本機にできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- USB3.0機器やその機器につながっているケーブルを本機から離してください。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 本機をテレビの下側に設置している場合は、本機をテレビから離してください。

- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

映像より音が遅れる

- 映画を見ているときは、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

リモコン

本機のリモコンが機能しない

- バースピーカーのリモコン受光部に向けて操作してください（7ページ）。
- リモコンと本機との間に障害物を置かないでください。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください（12ページ）。

テレビのリモコンが機能しない

- テレビのリモコン受光部が隠れないようバースピーカーを設置してください。
- IRリピーター機能を有効にしてください（19ページ）。

その他

HDMI機器制御機能が正しく働かない

- 本機との接続を確認してください（スタートガイド（別紙）を参照）。

- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差したときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。
- 本機につないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 本機につないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
 - 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
 - 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで
 - チューナー関連機器：4台まで
 - オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

バースピーカーのすべてのランプが10秒間点滅し本機の電源が切れる

- プロテクト機能が作動しています。電源コードを抜いて以下を確認してください。
 - バースピーカーの通風孔がふさがっていないか確認し、しばらくしてから本機の電源を入れる。

- USB機器を本機につないでいる場合は、USB機器を外してから本機の電源を入れる。
- 正常に戻った場合は、本機の最大出力電流500 mAを超えていり、またはUSB機器の異常が考えられます。

テレビの各種センサーが正常に動作しない

- バースピーカーの置きかたによっては、バースピーカーがテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）やリモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置までバースピーカーをテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機が正常に動作しない

- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。バースピーカーのー（音量）ボタンと△（電源）ボタンを5秒以上長押してください（40ページ）。

入力切換ボタンを押してUSB入力からTV入力に切り換えたときに、以下のメッセージが画面に表示される

テレビのリモコンでテレビのチャンネルを選んでください。

→ テレビのリモコンでテレビのチャンネルを選んでください。

初期化する

「困ったときは」で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

1 バースピーカーのー（音量）ボタンと（電源）ボタンを5秒以上同時に長押しする。

バースピーカーのすべてのランプが3回点滅し、本機が初期化されます。

2 電源コードを抜く。

3 電源コードをつないで、バースピーカーの（電源）ボタンを押して電源を入れる。

ちょっと一言

各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線がつけてあります。

その他

主な仕様

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）
フロントL／フロントRスピーカー：25 W×2（各チャンネル4Ω、1kHz）
サブウーファー：30 W（4Ω、100 Hz）

入力

テレビ入力（光デジタル）
USB

出力

HDMI出力（TV ARC）

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定による測定値です。

USB部

USB端子：
Aタイプ（USBメモリー）

BLUETOOTH部

通信方式
BLUETOOTH標準規格 Ver.4.2

出力
BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離
見通し距離約25 m¹⁾

登録台数
10台まで

使用周波数帯域
2.4 GHz 帯（2.4 GHz～2.4835 GHz）

変調方式
FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾
A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾
SBC⁴⁾

対応コンテンツ保護
SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz～20,000 Hz (32 kHz、
44.1 kHz、48 kHzサンプリング時)

- 1) 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。
- 2) BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
- 3) 音声圧縮変換方式のことです。
- 4) Subband Codec の略です。

スピーカー部

形式

2ウェイ3スピーカーシステム
バスレフ型

使用スピーカー

フロントL／フロントRスピーカー：
46 mm コーン型
サブウーファー：
70 mm コーン型

一般

電源

DC 19.5 V（付属のACアダプターをつないでAC 100 V～240 V、50/60 Hz電源にて使用）

消費電力（ACアダプター使用時）

25 W

スタンバイ状態：0.5 W以下（パワーセーブモード）（HDMI機器制御機能およびBLUETOOTHスタンバイ機能オフ時）

スタンバイ状態：2 W以下*（HDMI機器制御機能およびBLUETOOTHスタンバイ機能オン時）

* 本機はHDMIケーブル接続がなく、BLUETOOTHペアリング履歴がない場合に自動的にパワーセーブモードになります。

最大外形寸法*（約）（幅／高さ／奥行き）

580 mm × 64 mm × 95 mm

* 突起部除く

質量（約）

2.3 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく
変更することがあります。ご了承ください。

再生できる音声 ファイルの種類 (USB入力)

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	.mp3
AAC	.mp4、.m4a、.3gp
WMA9 Standard	.wma
LPCM	.wav

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録音状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - 128文字 (FAT16/32) または124文字 (NTFS) までのフォルダーパス (ルートフォルダーから目的のフォルダーまでの経路) 内にあるフォルダー
 - ルートフォルダーや空のフォルダーを含め、200個までのフォルダー
 - 1つのフォルダー内の200個までのファイル／フォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストレージクラス (MSC) 機器を認識します。

入力できる音声 フォーマット (TV入力)

以下の音声フォーマットに対応しています。

- ドルビーデジタル
- Linear PCM 2ch
- MPEG2-AAC

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：
－BLUETOOTH標準規格Ver. 4.2

対応BLUETOOTHプロファイル：

- －A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- －AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側 BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約25m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度

の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- －本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- －10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- －病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- －自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- ・本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- ・BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準

規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- ・本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- ・本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- ・本機に内蔵の無線装置に貼つてある証明ラベルをはがすこと



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機やACアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機やACアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または本機やACアダプターを本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機やACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体、ACアダプターや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

ぬれた手でACアダプターや電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下しきがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

設置上のご注意

本機の角だけがをしないようにお気をつけください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

バースピーカーについて

機銘板は底面に貼ってあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

△ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経つてから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



接触禁止



指示

△ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

+と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機側面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがあります。故障ではありません。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。

付属の電源コードセットについて

付属の電源コードセットは本機専用です。
他の電気機器では使用できません。

ACアダプターについて

- この製品には付属のACアダプター（極性統一型プラグ・JEITA規格）をご使用ください。付属以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。
- 付属のACアダプターは本機専用です。他の機器ではご使用になれません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通ります。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。

研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4FH8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してFH-SS変調方
式を採用し、与干
渉距離は80 mで
す。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル*およびMPEG-2 AAC (LC) デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Audio及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI™) 技術を搭載しています。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

“プラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“ClearAudio+” はソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および／またはその他の国におけるMicrosoft Corporation の登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

型名：HT-S200F

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル 0120-333-020	フリーダイヤル 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話 050-3754-9599

FAX(共通) **0120-333-389**



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「306」+「#」

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

HDMI



* 4 7 2 7 4 1 4 0 2 * (1)

©2018 Sony Corporation Printed in Malaysia

4-727-414-02(1)